

まちづくり交付金 フォローアップ報告書  
臼杵城跡周辺地区

平成22年3月

大分県 臼杵市

# 1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	白杵の町なみ来訪者数	人/年	190,000	210,000	217,000	確定 見込み ●	○	あり なし	230,000	H21年4月	○	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	白杵城跡と周辺地区の連続性が向上し、イベント等による利用が高まり、また、利用者にも白杵城跡の快適性が評価されたことで見込み値(前年値)を上回る結果が得られたと考えられる。
指標2	既存家屋等の修景件数	件	120	190	178	確定 見込み ●	△	あり なし ●	172	H21年4月	△	目標数値の設定の妥当性に疑問 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	平成30年から実施していることから、住民に関しては認知度は高く条例区域内では景観にそぐわない建築物は見られない。また、目標値には達しなかったが5年間の平均件数は事業実施以前のそれと比較して上回っている。
指標3	白杵城〜町なみの一体化度	%	50	70	63	確定 見込み ●	△	あり なし ●	62	H21年4月	△	事業のPR不足や効果の即効性のなさ <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	事業によりまちの連続性は向上したが住民・観光客の認知度はまだ低い状態である。しかし、イベント等での活用事例も増え、今後のPRなどにより認知度が高まれば一体化度も高まる要素は十分にある。
指標4	商店街来店客上昇率 (商店街アンケート調査による来店客が増加傾向にあると回答した割合)	%	16.6	25.0	32.5	確定 ● 見込み	○	あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	各事業の実施により、地域一体への来訪者を誘導できる環境が向上したとの評価が得られた。
指標5						確定 ● 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	中心市街地の玄関口の整備	・臼杵城跡の法面の整備(モルタル吹付けを従来の岩肌に戻す) ・祇園洲柳原線の整備(都市計画道路)	いづれも事業実施中の段階であり、効果等は不明確	市民のニーズにおける確認作業(協議会や説明会)の充実と経済的な面からスピード感のある整備が実施できるか
	魅力ある交流の場の整備と賑わいの創出	・商店街人材育成 ・サーラ・デ・うすきの有効活用の検討 ・竹育、祇園祭等のイベント	イベント等は臼杵城跡も活用されるようになり、波及効果が表れ始めた	イベントなどは徐々にマンネリ化してきている様子も伺えるなかでの企画力の向上やキーパーソンの育成など
	臼杵らしさの醸成と演出	・臼杵城跡の発掘調査の発表会	多数の参加により臼杵の歴史の認知度が高まった	さらなる人材の育成やPR活動の強化
改善策	臼杵城跡と城下の町なみの景観の連続性の形成	・観光交流センターの整備(既存建物の活用) ・石畳舗装の整備 ・大手門広場の整備	現在計画中	住民へのPRや意見交換等により認知度を高め、まずは市民レベルで多くの人に訪れてもらうことが必要
・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	歴史的景観を活かした中心市街地の賑わいの復活	・祇園洲柳原線の整備(都市計画道路) ・稲葉家下屋敷の改修による地域コミュニティの拡大 ・まちなみの連続性を高めるサイン事業	現在整備中	充実した活用方法の検討が必要 統一されたデザインなどにより、わかりやすさを演出する
	日常レベルでの機能性のアップ	・駐車場の整備 ・案内板等のサイン整備 ・避難地、非難路の確保など	未実施	住民と観光客との共存と融和が不可欠であり、そのためには行政、市民が一丸となれるような意識の統一が必要

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
景観計画等による景観形成の強化	高さや色彩の制限などによるまとまりのある景観形成	市全体的な構想・方針が策定され、今後具体的な施策を検討する	現行の景観条例との調整(区域設定など)
整備したものを活かすソフト事業の強化	・商店街人材育成支援事業 ・イベント、祭りなどの仕掛けによる賑わいづくり ・観光ルート化事業 ・空き店舗対策 ・新しい観光資源の発掘 ・魅力ある新商品研究・開発 ・商店街の体験学習等	中心市街地活性化基本計画(任意)により実施段階にある	人材育成、キーパーソンの発掘 歴史・文化・産業・観光が一体となった取組の強化

都市再生整備計画(精算報告)

臼杵城跡周辺地区

大分県 臼杵市

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	臼杵市	地区名	臼杵城跡周辺地区	面積	29.3 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

<b>目標</b>							
<p>大目標：中心市街地をその歴史特性を活かした景観整備によって、人・モノのが活発に交流するまちの賑わいを復活させる。</p> <p>目標1：城下町のシンボルである臼杵城跡の史跡景観整備を行なうことで、地域住民の景観保護意識の高揚を図る</p> <p>目標2：地域住民が自発的に景観形成に取り組み、自らが地域特性にふさわしい居住環境を形成・維持できる環境を整備する。</p> <p>目標3：地域特性にふさわしい景観のなかで、活発な人的・物的交流が活発となる拠点を整備する。</p> <p>目標4：来訪者が地域住民の生活を妨げることなく、安心して円滑にまちなみ散策を楽しめる環境を整備する</p>							

<b>目標設定の根拠</b>							
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>旧臼杵城下町地区は、戦国末期の太田氏城下町を母体とした近世城下町の範囲である。旧城下町域は近代以降に大きな改変を受けておらず、近世期そのまま位置と幅員を変えずに残る街路や、当時のままの町割り、そのよすがを伝える多くの伝統的建造物が今も残されている。</p> <p>臼杵市ではこうした歴史的遺産を保全しつつ、住みやすく、賑わいのあるまちづくりを目指して、昭和62年の「臼杵市歴史環境保全条例」制定による歴史環境保全地域の設定と修景助成を嚆矢として、平成4～5年度の「二王座歴史の道整備事業」、平成10年度からの「街なみ環境整備事業」、平成14年度からの「身近なまちづくり支援街路事業」での、石畳美装化による城下町以来の街路の修景を行ない、建屋と街路が一体として修景され、落ち着いたたたずまいの形成に努めてきた。また、戦国末期から現在まで中心商店街の性格を保っている本町通りの商店街については、平成12～16年度の期間で、城下町にふさわしい景観統一と、地区特性を活かした商業活動を支援する「商業地域景観形成事業」に取り組んでいる。こうした城下町景観のシンボルといえる県史跡臼杵城跡(都市計画公園臼杵公園)についても、臼杵城保存整備計画に基づく既存遺構の保存修理や城郭建築物の復元などを行なうことによってその存在感を高め、市民や来訪者の憩いの場であると同時に、臼杵の歴史特性を後世に伝える核的存在となっている。</p>							
<b>課題</b>							
<p>昭和の末から徐々に景観整備が進められたことによって、城下町地区の面的な歴史的景観の保全ははかられつつあるが、臼杵城跡と歴史的な町並みの間には、また歴史的景観保全の観念がなかった昭和40年代から50年代にかけて建てられた、歴史的景観に適合しない中層建築物が立ち並んでいる空間が形成されている。この空間部分については近代化が著しかったため、現在まで歴史環境保全地域には編入されておらず、修景事業の対象ともなっていない。そのような中で、この空間の東側部分に都市計画道路が敷設されることに伴い、臼杵城跡周辺の家屋等の立ち退きが始まり、歴史環境保全地域から臼杵城への展望が広がってきていることを受けて、早い時期にこの空間をなんらかの形で景観整備する必要が生じてきた。また、この近代的空間のために、今まで景観の連続性が途絶えていた感のある海浜地区から臼杵城跡、二王座地区方面への歴史的景観の連続性を確保を行なうと同時に、これらの区間をつなぐ散策街路の整備の必要性が求められる状況下にある。</p>							
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>臼杵城跡と歴史環境保全地域の間の空間については、中心市街地の活性化計画と整合性をはかりながらの修景整備が必要である。この空間に存在する歴史景観を阻害する建築物等の増加を招かないような規制措置を都市計画法の手続きではかると同時に、市町合併後の総合計画の中で優先課題とした上で、この空間の土地の公有化を進め、これを市民に修景施設として開放する方向性での事業展開をはかる。</p>							

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
臼杵の町なみ来訪者数	人	観光動態調査データによる、臼杵町なみ来訪者数	歴史的景観整備等の充実に伴うまちの賑わいの復活を目指す	190,000	H15	210,000	H20
既存家屋等の修景件数	件	歴史環境保全事業による修景補助件数	地域住民の景観形成に対する意識の高揚と地域特性を活かした居住環境の形成を進める。	120	H15	190	H20
臼杵城～町なみの一体化度	%	臼杵町なみ来訪者数における、臼杵城跡来訪者の割合	臼杵城跡が臼杵の町なみのシンボルとして意識されてきたかどうかをはかる	50	H15	70	H20
商店街来店客数上昇率	%	アンケートによる中央通り商店街来店客数の上昇率。15年度に「上昇傾向にある」と回答したパーセンテージを基準にする。	歴史的景観整備の充実にともな、地域特性を活かした経済活動により臼杵城と町なみをつなぐ商店街の活性化を目指す	16.6	H15	25	H20

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針1(白杵の歴史景観シンボルとしての白杵城跡整備)</li> <li>・白杵城下町のシンボルである白杵城跡を近世城郭にふさわしい景観に整備するため、旧城道を活かした順路整備、既存遺構の保存と遺構復元をはかりつつ、安全で市民の憩いの場にふさわしい史跡公園とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白杵城再生整備事業</li> <li>大手門公園整備事業</li> <li>白杵城周辺サイン整備事業</li> <li>大手門筋街路整備事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針2(白杵城跡を核とした活用性の高い施設整備)</li> <li>・歴史環境保全地域と白杵城跡の間の空間を、城下町にふさわしい歴史的景観確保と市民の憩いの場として整備する。</li> <li>・地域の特性を活かしたイベント等に利用できる、利便性と活用性の高い施設整備を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手門公園整備事業</li> <li>白杵城再生整備事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針3(交通拠点・景観保全地区と白杵城を結ぶ順路整備)</li> <li>・景観的に分断されていた歴史環境保全地域(海浜地区)と白杵城跡をつなぐ散策街路の修景とともに整備されるポケットパークに休憩舎・トイレを設置し、活用性の高いものに整備する。</li> <li>・白杵駅から白杵城跡を通り町なみへつなぐ順路を形成するために順路サイン・観光情報提供板を整備することによって、地域の歴史特性をアピールす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケットパーク整備事業</li> <li>白杵城周辺サイン整備事業</li> <li>白杵城再生整備事業</li> <li>大手門公園整備事業</li> <li>大手門筋街路整備事業</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果の評価について</li> </ul> <p>交付金事業施工期間中に、目標値の従前値の算出を行なったのと同じ方法で目標値の達成状況を逐次チェックしていくが、最終年度において総括的な事業活用調査を行い、最終的な成果達成の指標としたい。</p>	

